美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要
2001, Vol. 46, 87～93

報告・資料

音楽教育研究会第6回研究発表会を終えて　－音研の存在意義について考える－

Consideration on the Significance of the Music Education Circle after the 6th Presentation Meeting

岩　田　　力

はじめに

美作女子大学音楽教育研究会（以下音研と記す）は、授業を補う音楽塾的な発想で始めることとなった。平成10年度のことである。ピアノ演奏法研究に取り組む者、教員採用試験に向けて問題集に取り組む者、弦楽合奏研究に取り組む者などが報告者の研究室に集ううちに、研究発表会を設け各々が各々に課した課題を消化するという方法でそれぞれの研究を進めようとの結論に達したのである。

この度、その研究発表会が第6回を終えた。

本報告はこれまでの6回の研究発表会、そしてその他の行事について、内容と効果について振り返り、音研の存在意義を再度確認し、今後の会の運営に資することを目的として進めることとする。

1．研究発表会

研究発表会は、当初より目的とした音研の中心的行事である。これまでに6回を終えている。

発表の中心はピアノ等の演奏法研究が中心となるが、音研では、将来、教育に従事することになる学生が演奏法研究、テクニックのみの研究に終止することのないようにとの考えから「楽曲について」「作曲者について」の研究を課すこととしている。発表者は音楽辞典等を参考に研究レポートを提出する。そのレポートは楽曲解説として発表会パンフレットに載せてきた。楽曲演奏の際は、その楽曲の作曲された背景の十分な理解、又、細かな楽曲分析が必要不可欠であろうと思う。そのような研究によって、楽曲をより深く理解することになり、ひいては再現芸術として、より高い演奏、より高い完成度を極めることにもなる。音研での研究レポート作成を通して、そのような研究の習慣付けをしたいと考えているのである。又、各自の発表曲は自分の力量、あるいは研究目標により選曲をしなければならないが、単に発表会を楽しむのみでなく、各々にとって学習効果を期待できるものを選ぶように指導してきた。これまでの演奏曲目についてはプログラムを参照されたい。

プログラムに見られるようにこれまでの6回の研究発表会での発表内容はピアノ演奏、歌唱、教材研究（歌唱とピアノ伴奏）、論文発表、弦楽合奏、管楽器演奏、教材研究（合唱）である。それぞれの部門についての内容報告と同時に、効果、あるいは反省点についても考えてみたい。

1）ピアノ演奏部門では、独奏と連弾の二方法が見られる。研究曲目は、報告者がアドバイスをすることもあるが、多くは発表者自信の選択によるものである。様々のレベルの学生がそれぞれの目標を設定して学習している。よって、バイエルなど難易度の低い楽曲からリスト、ショパンなど難易度の高い楽曲まで様々である。ピアノ演奏部門での発表曲は43曲（複数回の演奏を含む）である。作曲家別では、ベートーヴェンが最も多く8回、続いてショパンが6回、リスト、モーツァルトがそれぞれ4回、ラヴェル、バイエルがそれぞ

れ3回、シューベルト、バッハ、メンデルスゾーン、クレメンティ、ブラームス、ハイドンがそれぞれ2回、ヴィヴァルディ、サティ、モルポウがそれぞれ1回取り上げられている。ベートーヴェンの楽曲がもっとも多く取り上げられているが、ベートーヴェン、モーツァルトはやはり中心的に学習する課題となるものであろう点を考慮するならば、ある程度バランスよく研究していると考えてよいであろう。又、学生個々の研究曲目を見ると、好みの作曲家の楽曲を複数回取り上げる学生は当然に多いが、それのみの学生は0人である。それぞれに多くの作曲家について研究しようとの姿勢が見られる。選曲については今後も、各学生の能力に応じてバランスよく、又、多くの作曲家に興味を持つように指導しなければならないと考えている。

2）歌唱・教材研究（歌唱とピアノ伴奏）部門には延べ6名が発表している。そのうち、小学校、幼稚園での教材研究としての歌唱発表者は3名である。音楽研究といえばやはりピアノ演奏法研究が中心となるのであるが、音研に参加する学生の多くが、小学校、幼稚園の教員志望であることを考慮するとき、この部門での研究の奨励、あるいは援助がより肝要になろうと思われる。

3）論文発表部門には延べ3名が発表している。平成10年度に2年生でこの部門に研究発表した学生は、現在4年生となり、当時の研究を発展させた内容で卒業論文に取り組んでいる。2年生の時にハーモニカ、リコーダーなどの楽器についての研究、現在は、器楽合奏のための編曲法についての研究である。2年生からの楽器についての研究成果の下に、4年生で編曲法研究に取り組むことが出来たものと思われる。こうした低学年からの長期間にわたる研究は非常に喜ばしい事例と捉えている。今後もこうした地道な、長期間の研究を期待したい。

4）弦楽器・管楽器研究部門には12回の発表があり、延べ50名が発表している。発表の楽器は、弦楽器ではヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、管楽器ではリコーダー、フルート、トランペット、トロンボーンである。小学校の音楽科指導上には、様々な楽器、様々な音楽についての指導力が必要である。教員希望の学生はピアニズム研究のみに偏ることなく、より多くの楽器に興味をもち、それぞれの楽器が有する幅広い音楽性を身に付けて欲しいと願っている。今後は上記の楽器に加え、より多種の楽器についての研究をも望みたい。又、これまでの発表会では見られなかったが、邦楽器についての研究も望みたい。小学校音楽科の指導要領では取り上げる楽器について「各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、我が国や諸外国に伝わる様々な楽器……」、「第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、我が国や諸外国に伝わる楽器……」と延べている。又、鑑賞教材についても「箏や尺八を含めた我が国の音楽……」の文言を見ることができる。尚、本年度の全国アンケート[1]によると「邦楽器を扱っていない学校は、扱っている学校よりもずっと少ない」との事である。邦楽器についても積極的な取り組みを期待したい。

5）教材研究（合唱）の部門。この部門には音研の全員が参加する。報告者も参加し、合唱指揮をしている。研究（合唱発表）曲目は小学校の歌唱共通教材を中心に選曲、第2回研究発表会からは毎回発表をしてきた。授業での教師のあり方、又、楽曲をどう指導したらよいかについて考える契機となるように研究を進めている。当然のことながら教師は「教材をどう指導するか」の前に「その曲がどのような曲なのか」を十分に掌握していなければならない。音研では、その曲のどの部分がどの様に素晴らしいのか、どの様に楽しいのか、面白いのかについて気付くと共に、どの様に歌うことによってそれを感じることができるか、表現できるか、さらには児童にそれを感じさせるにはどう指導すればよいのか、などの事項に着目しながら合唱として仕上げ、発表している。

6）反省会について。発表会の終了後直ちに行う反省会は研究発表会の極めて重要な行事と位置付けをしている。反省会では臆することなく出来るだけ自由に互いの発表について批評するように指導している。互いの長所・短所を厳しく評価し論じ合うことによって、高い緊張度の中に発表を聴く習慣付けが出来るであろ

う。又、各自の批評眼を高める事も出来るであろうと考えている。但し、これまでは高学年からの批評は多いのであるが、おのずと低学年からの批評は少ない。この点は今後の課題としなければならない。学年の上下に関係なく、誰もが発言しやすい雰囲気作りを心がけなければ前述の目標達成はならないであろうから。そうして、賛否様々の指摘を受けた発表者はそれを次回の研究発表に反映出来るように努力することにしている。

2．先輩の授業を見学

この企画は小学校教員を希望する学生が、その目標をより強固としてくれることを願って計画した。学生にとって非常に近い存在である先輩の授業に接することで「先輩に続いて自分も必ず教員に」との決意を明確としてくれることを願っての立案である。

平成10年度はO先輩の協力を得て11月16日（月曜日）岡山県北部のA小学校3年生の音楽の授業参観（指導はO先輩）が実現した。岡山県北部ではこの年10月17日から18日にかけて台風10号が直撃、被害甚大であった。O先輩の小学校も浸水、学校への道路は寸断という状態である。台風から一ヵ月後とはいえ、台風の爪あとの生々しい中ご協力下さった、O先輩、A小学校の先生方には今も深く感謝している。

授業参観を有意義とするために、又、O先輩・A小学校のご好意をより有益とするために音研では次の様に事前学習・準備を進めた。

1．O先輩から事前に示された教材について研究し、学生自身が授業をするものと想定して指導案を立てる。そうして参観後に先輩の授業との比較検討をし、自分たちの指導案に何が不足するのかを考えようとしたのである。ところが、O先輩は前述のようにご多忙の中、指導案を作成して下さった。従って、事前に授業の展開を想定することができ、事前に双方の授業の比較検討（指導案上で）が可能となった。当然のことながら授業の展開をより十分に理解するためにも有益となった。先輩の指導案によって尚更に有意義な授業参観となったものと感謝している。

2．当日の授業に取り上げられる歌唱教材については、研究発表会・教材研究（合唱）の項でも延べたように、「その曲がどのような曲かを知らなければ指導は出来ない」との観点から事前に全員で研究することとした。そうして合唱曲として仕上げ、当日には児童の前で披露することとした。この教材研究は学生の指導案作成に大いに益したものと思われる。又、合唱発表後に児童から「プロの合唱団みたい」と言われて大喜びした学生の姿がとても印象的であったことも付記しておきたい。

3．質問会

授業後のO先輩を囲んでの質問会は報告者の強く希望した行事である。授業参観をより有意義とするためには当然に必要であるが、加えて、先輩と在学生の接点をより拡大化するためにも不可欠と考えた。O先輩の快諾によって開くことの出来た質問会は活発な雰囲気の内に進めることが出来た。又、先輩のご配慮によってなごやかな雰囲気の内に会を進行することも出来た。現場に接しなければ分からない質問が多く、又、質問数も非常に多かった。学生の教師への強い意欲を見ることが出来たように思う。

3．大学院説明会

報告者の元卒業論文生でH大学大学院（音楽教育）への進学者を招いて、大学院の入試のこと、学習内容、そして就職状況などについての説明会を開いた。方法は筆者が用意した質問に大学院生が答えるという方法をとった。報告者の質問後、学生の質問にも大学院生は熱心に応じてくれた。この折の参加者の中から、今年度はH大学大学院、H・K大学大学院、N・K大学大学院（いずれも音楽教育）へ合格者が出ている。今後とも、学生には様々な進路の選択肢があることを紹介して行かなければならないものと考えている。

4．美作ストリングスのこと

音研の弦楽合奏研究グループは『美作ストリングス』として平成11年度の大学祭に出演した。当日のプログラムは、ヨハン・パッフェルベルの『カノン』、ヘンデルの『水上の音楽』（抜粋）などである。この演奏会は在学生と卒業生との合同演奏という形で行った。卒業生には母校に足を運びやすいように『卒業生のための美作ストリングス』を編成して卒業生のみの定期的な練習（土曜日）も組んできた。小学校や幼稚園の教師となっている卒業生と在学生との合同練習の後には必ずのように授業の話がでる。苦労話や悩み相談になることも多い。他の教員との意見の食い違い、児童や幼児と初めて接しての戸惑い、児童に楽器をどう振り分けるか、指揮はどうしたらよいか、曲をどう仕上げればよいか、などである。実のところこの悩み相談は報告者の望む重要な目的の一つである。『美作ストリングス』は合奏を通じてより深く音楽を学ぶ場であると同時に、音楽教育についてのディスカッションをする場であって欲しいと願っている。そうして卒業生や在校生がともに考え、ともに成長する好機となることを願っている。

音楽学習の場として、音楽教育について学習する場として『美作ストリングス』は今後も継続して行きたいと思う。可能であるならば管楽器も加えたオーケストラへと発展させ、より多くの学生、より多くの卒業生がともに学ぶ場となることを願っている。

まとめ

平成10年発足以来の音研の様々な取り組み、6回の研究発表会、先輩の授業参観、大学院説明会、美作ストリングス演奏会などについて、その内容と報告者の感想・効果（筆者の確信）・反省点などを織り込みながら報告を進めてきた。報告を進めるに当たり、これまでの資料を整理して初めて参加者の多さに驚くことになった。そうした多くの学生の熱心な研究によってある程度の成果は得られたものと考えている。個々についての学習上での成果については多々認める事ができるが、具体的に述べることは困難であり本報告上での詳細省略はやむなしと思われる。しかし、音研会員の中から大学院への合格者、Y社のピアノ演奏グレード4級合格者、指導グレード4級合格者などが出たことは報告に値する事例であろうと思う。又、卒業後に小学校音楽科の専科教員となる者、小学校で熱心に器楽合奏に取り組む者も出てきた。これも大変に喜ばしく、報告に加えたい。

また、発表会後の反省会で、学生から音研についての次のような感想・意見を聞くことができた。

1．練習に先立って、楽曲の研究が必要であること。その楽曲の作曲された背景や作曲家についても文献などで十分に研究しなければならないということが分かった。

2．音楽の深さに気付いた。これまでは楽譜に書かれたままに演奏すればよいと思っていたが、楽曲には作曲家のメッセージが込められていることを音研で学んだ。音研での研究がそれを学ぶ契機となった。

3．小学校で音楽の授業をするためには、教科書の曲のみの勉強だけでは不十分ということが分かった。これからは優れた演奏を聴くように心がけて、より高い音楽性を身に付けたい。

音楽の捉え方、あるいは学習の方法について、このような感想（変化）を聞くことが出来たことは、大きな効果と考えてよいであろうと思う。報告者のみならず学生も音研の存在意義については認めているものと思われる。学生の感想を裏付けるように、最近は演奏会場で音研の学生と会うことが多くなった。岡山はおろか大阪まで足を運ぶ学生もいるようである。常に高い音楽性追求の姿勢を持って、出来るだけ優れた音楽に接するようにして欲しいと思う。また、和声法や作曲法、編曲法に興味を持つ学生も出始めている。楽曲の細かな研究のためにはそれらの研究は不可欠である。根気よく学習して欲しい。また、音研の学生の提案によって平成10年度の卒業式から卒業生全員による合唱が組み込まれている。音楽をより深く学習しよう

という姿勢の中から生じた発案であろうと思うし、これも、小ながら音研の効果の一つと捉えてよいであろう。是非にも継続して欲しいものである。

これまで述べたささやかな効果を、新たに目標として、音研を更に継続し、学生のより深い音楽学習を期待したい。

今後の音研の運営については多くの方々のご意見を伺いたい。

「註」

1)『音楽教育・小学版』2000年度、11月号、P.56

研究発表会プログラム

第1回研究発表会

1．歌唱とピアノ伴奏 …… 小学校歌唱教材より
「とんび」「スキーの歌」「おぼろ月夜」

2．ピアノ演奏 …… ベートーヴェン
ソナタ第1番　第1楽章

3．ピアノ演奏 …… ベートーヴェン
ソナタ第23番「熱情」第1楽章

4．弦楽三重奏 …… ヘンデル
「メヌエット」

5．ピアノ演奏 …… バイエル教則本より

6．ピアノ演奏 …… ベートーヴェン
ソナタ第20番　第1楽章

7．ピアノ演奏 …… ベートーヴェン
ソナタ第25番「カッコー」第1楽章

8．ピアノ演奏 …… モーツァルト
ソナタ　K282　第3楽章

9．ピアノ演奏 …… クレメンティ
ソナチネ　Op.36 第5番　第1楽章

第2回研究発表会

1．ピアノ演奏 …… シューマン
幻想小曲集　Op.12 第2番「飛翔」

2．ピアノ連弾 …… ブラームス
ハンガリー舞曲　第5番

3．ピアノ演奏 …… シューベルト
即興曲　Op.90 第4番

4．歌唱
「どんぐりころころ」「秋の子」「赤とんぼ」

5．弦楽合奏 …… ヘンデル
「水上の音楽」より

6．歌唱 …… ジョルダーニ「いとしい恋人よ」
パイシェッロ　「うつろの心」

7．ピアノ演奏 …… ショパン
ノクターン第2番　Op. 9の2

8．ビオラ・チェロ二重奏 …… ドヴォルザーク
「遠き山に日は落ちて」

9．ピアノ演奏 …… ラヴェル
「亡き王女のためのパバーヌ」

10．ピアノ演奏 …… メンデルスゾーン
無言歌集　Op.3O 第3曲

11．ピアノ演奏 …… バイエル教則本より
第98番

12．論文発表
論文題目「ハーモニカについての研究」

13．論文発表
論文題目「ピアノ・ペダルの技法研究」

14．ピアノ演奏 …… リスト「二つの伝説」より
第2曲「波を渡るパオラの聖フランソア」

15．教材研究（合唱）
「もみじ」「ふるさと」

第3回研究発表会

1．歌唱 …… グノー
「アヴェ・マリア」

2．ピアノ演奏 …… バッハ
インヴェンション　第5番　第6番

3．歌唱 …… プッチーニ
オペラ「ジャンニスキッキ」より
「私の優しいお父様」

4．ピアノ演奏 …… サティ
「ジムノペディ」第1番

5．弦楽合奏 …… モーツァルト

「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」より
第２楽章
アンダーソン
「プリンク・プランク・プルンク」
6．ピアノ演奏 …… ショパン
エチュード集Op.25より第１番
7．フルート演奏 …… W・ウイリアムズ
「グリーンスリーブスによる幻想曲」
8．ピアノ演奏 …… クレメンティ
Op.36第３番　第１楽章
9．歌唱とピアノ伴奏 …… 「ジングル・ベル」
「きよしこのよる」「ドナ・ノービス・パーチェン」
10．ピアノ演奏 …… ショパン
ノクターン
11．ピアノ連弾 …… ブラームス
ハンガリー舞曲　第５番
12．ピアノ演奏 …… リスト「二つの伝説」より
第２曲「波を渡るパオラの聖フランソア」
13．論文発表
論文題目「リコーダーについての研究」
14．教材研究（合唱）
「ふじ山」「冬げしき」

第４回研究発表会
1．弦楽合奏 …… ヘンデル
「メヌエット」
2．ピアノ連弾 …… バッハ
小フーガ　ト短調
3．ピアノ演奏 …… モルポウ
「内密な印象Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」
4．ピアノ演奏 …… ショパン
ワルツ　Op.69の２
5．トロンボーン演奏 …… カーペンター
「イエスタデー・ワンス・モア」
6．ピアノ演奏 …… ハイドン
ソナタ第62番　第１楽章
7．ピアノ演奏 …… モーツァルト
「ああ、お母さん、あなたに言いましょう」
による12の変奏曲　K265
8．ピアノ連弾 …… ヴィヴァルディ
「四季」より「秋」
9．トランペット演奏 …… コンバース
「星の世界」
10．リコーダー三重奏 …… ホルスト
「木星」「グリーンスリーブス」
11．ピアノ演奏 …… バイエル教則本より
第88番、第91番、第93番、第98番、第100番
12．教材研究（合唱）
「茶つみ」「気球にのってどこまでも」

第５回研究発表会
1．弦楽合奏 …… ヘンデル「プレスト」
アンダーソン「プリンク・プランク・プルンク」
2．クラリネット演奏 …… フォーレ
「シチリアーノ」
3．ピアノ演奏 …… ベートーヴェン
パイジェッロの喜歌劇「粉屋の娘」の二重唱
「うつろな心」による６つの変奏曲
4．ピアノ演奏 …… シューベルト
即興曲Op.90の４
5．ピアノ演奏 …… メンデルスゾーン
無言歌集よりOp.53の２
6．ピアノ演奏 …… ショパン
ノクターンOp. ９の２
7．教材研究（合唱）
「おぼろ月夜」「翼をください」

第６回研究発表会
1．ピアノ演奏 …… ラヴェル
「古風なメヌエット」
2．ピアノ演奏 …… ハイドン
ソナタ第35番　第１楽章
3．ピアノ演奏 …… ベートーヴェン
ソナタ第20番　第１楽章
4．ピアノ演奏 …… リスト
愛の夢　第３番
5．ピアノ演奏 …… モーツァルト
ソナタ　K332　第３楽章
6．フルート・ピアノ二重奏 …… J・オーナー

「タイタニックより愛のテーマ」

7．ピアノ演奏 …… ベートーヴェン

ソナタ第11番　第１楽章

8．教材研究（合唱）

「まきばの朝」「われは海の子」

（2000年12月1日　受理）